

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部



令和六年十二月度 入賞句一覧 投句数 六百二十九句

特選

田中 青志 選

山眠る無事故で返す免許証

海津市

水谷 勲一

高齢者による事故が多いという報道があるたびに、肩身の狭い思いをする今日。免許証返納の呼びかけには身につまされながらも、おれは大丈夫と心に言い聞かせながら安全運転に心掛けてきた。しかし、貰い事故というのも避けて通れないのが最近の交通事情。このような状況の中で、無事故で返納することができたことへのよろこびが伝わる。

日が沈む売地まつ赤な木守柿

大垣市

小林 研

売らないで！木守柿が真つ赤になつて怒つて見るのは、今沈まんとするお日さまのせい。お日さまが、木守柿の代弁をしてくれているのだからかと思わせるのがこの句の作者の狙いだが、そんなちやちなことではないものを考えさせるのが俳句の面白さ、奥深さなのである。

立ちこぎの少年伊吹風かな

不破郡垂井町

北村 廣美

自転車の立ちこぎは、大げさに言えば若さの象徴。しかも、この地方独特の伊吹風に向かつてである。頑張れ少年、この少年によき未来あれ！

秀逸

病棟の明かりが消され夜長かな

大垣市

後藤 喜美男

御嶽の山容しかと霜の朝

大垣市

久保田 悟義

真青なる空へはみ出す紅葉かな

岐阜市

花川 和久

残照の古刹巡りや冬紅葉

大垣市

後藤 慶子

青空へ息吹き返す松手入れ

京都府宇治市

八田 弥須子

冬の鴟山は銜をよく返し

三重県四日市市

後藤 允孝

黄落のひかりの道を歩みけり

愛知県尾張旭市

小野 薫

ふるさとはダムの底なり木の葉雨

大垣市

長柄 明美

日向ぼこ生きているつて楽しいね

埼玉県川口市

木下 洋子

冬空へ手を振るやうに窓を拭く

東京都武蔵野市

木嶋 純子

入選

天高く遠くまで続く稜線

三重県いなべ市 新貝 里美

熱爛の口を尖らせ飲みにけり

大垣市 三輪 実

一号と呼ばれ木枯し反りかへる

岐阜市 伊藤 をさむ

山城は美濃一望や鷹の舞ふ

各務原市 桑原 緑

朝霧に蜘蛛の罫はシャンデリア

岐阜市 後藤 三恵

いつか来たあの道今も落葉道

大垣市 田中 幸男

立冬の日差しの届く書斎かな

大垣市 村田 通夫

夕暮は輝き時や枯尾花

大垣市 浅野 照章

おだやかに流るゝ水や冬の川

大垣市 尾関 逸子

久に会ひ手を重ね合ふ小六月

大垣市 田中 雅子

冷え冷えと身震ひ一つ山は雪

安八郡神戸町 早津 郁男

陽だまりの一足早き紅葉かな

岐阜市 寺島 瞭太

役終へて舟繋がるる秋の川

大垣市 スミノさくら

縫れたる縁途切れず烏瓜

岐阜市 堀江 美州

山門に遊ぶ雀や石蓐の花

大垣市 和田 勝子

選者吟

渾身は己の鼓舞や冬紅葉

青 志



一般の部